

## 第2章 赤谷プロジェクト 自然環境モニタリング基本方針と構造

### 2-1 自然環境モニタリング基本方針

#### 2-1-1 赤谷プロジェクト「自然環境モニタリング検討委員会」

赤谷プロジェクトは、平成16年度に「自然環境モニタリング検討委員会」を設置し、プロジェクトの自然研究プログラムの基本方針及びモニタリングテーマについて検討を行った。検討にあたって、委嘱した委員は以下のとおりである。

氏名	所属（専門分野）
亀山 章（座長）	東京農工大学教授（景観生態学）
足立高行	応用生態技術研究所所長（動物生態学）
土屋俊幸	東京農工大学助教授（森林政策学）
中井達郎	国士舘大学非常勤講師（自然地理学）
安田剛士	群馬県ニホンザル保護管理検討委員（獣医学）
山崎 亨	日本イヌワシ研究会（鳥類生態学）

表1 赤谷プロジェクト自然環境モニタリング検討委員会 委員

「自然環境モニタリング検討委員会」は、平成16年9月29日に第1回、11月2-3日に第2回（現地検討会）、2月18日に第3回を開催した。各回の議題は下表の通りである。

開催日	会場	議題
第1回 (9月29日)	食糧会館 (東京)	①赤谷プロジェクトの概要と進捗状況について ②赤谷プロジェクト「自然環境モニタリング基本方針」の策定について ③検討委員会の今後の日程と作業手順について
第2回 (11月2-3日)	浜屋旅館 (新治村)	①プロジェクト・エリア現地視察 ②第1回検討委員会の論点整理 ③「モニタリング基本方針」に向けての審議
第3回 (2月18日)	食糧会館 (東京)	①自然環境モニタリング基本方針の策定 ②調査研究内容の概略提案

表2 赤谷プロジェクト自然環境モニタリング検討委員会 開催経過

## 2-1-2 赤谷プロジェクト「自然環境モニタリング基本方針」

検討委員会は、3回の審議と1回の現地視察を行って、赤谷プロジェクトにおける自然環境モニタリングの目的及びテーマ、基本方針を検討した。

### 赤谷プロジェクト 自然環境モニタリング基本方針 (第1期)

赤谷プロジェクト（「三国山地／赤谷川・生物多様性復元計画」）は、生物多様性の復元を科学的根拠をもって進めるため、以下の目的と基本方針に基づいて自然環境モニタリングを行う。

#### 【目的】

- [1] 1万ヘクタールのプロジェクト・エリアの環境特性を明らかにするため、エリア全体にわたる自然性を把握する。
- [2] 将来にわたる適切な調査項目の設定を行うため、エリアに生息する主要な生物の基本生態を把握する。
- [3] 生物多様性復元のとりくみを的確に評価するため、人間の作為に対する自然の応答と、作為の対象エリアの生物多様性復元に対する効果を把握する。
- [4] エリア全域の生物多様性に対する働きかけの方向性を的確に評価するため、人間の作為の集積と自然の有するダイナミズムとの応答関係を把握する。

#### 【基本方針】

- [1] 生物多様性復元に向けたすべての活動は、自然環境のモニタリングに基づく科学的根拠を基盤として進めるものである。科学的根拠の集積と自然環境モニタリング事業の審議検討は、「自然環境モニタリング会議」を設置して行う。

- [ 2 ] 自然環境モニタリングには、自然性の把握だけでなく、人間の作為に対する反応を評価するとともに、その知見が場へフィードバックされる必要性があることを認識する。
- [ 3 ] 調査設計、フィールド設定にあたっては、生物多様性復元に資するデータの集積可能性を最優先に考える。
- [ 4 ] 生物の生態調査は、生物多様性復元事業を進めるにあたっての指標とすることに主眼をおく。
- [ 5 ] 調査研究の進捗に従って、モニタリング・ユニットの外縁が現れてくるよう、複数のテーマの成果を常に参照する。
- [ 6 ] プロジェクトの環境教育プログラム、エリアのカントリーコード作成、野生動物による農作物被害等の自然に関わる社会問題への説明など、他事業への適切な情報提供機能を持つ。
- [ 7 ] モニタリングは、地域住民に対してプロジェクト・エリアに対する関心を醸成するような、啓蒙的要素の織り込みを認識する。
- [ 8 ] 林野庁職員、日本自然保護協会職員、地域協議会会員等のプロジェクト関係者やサポーターに対する専門教育機会として活用されることを織り込む。

## 2-2 自然環境モニタリングの構造・テーマ

【目的】	【調査項目】	【第1期に収集が必要な基礎資料・基礎データ】
[1] エリア全体にわたる自然性の把握	① 地理情報システム (GIS) 作成 ② 森林と地域社会の関係 ③ 植生構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 植生図、土壌図、等基本情報図</li> <li>・ 住民の過去の森林利用聞き取り調査</li> <li>・ 詳細植生図 (現存植生、潜在自然植生)</li> <li>・ 動物の行動データベースソフトウェアの作成</li> </ul>
[2] 主要な生物の基本生態把握	① イヌワシ、クマタカ ② エリア全体の鳥類・猛禽類相 ③ 中小型ほ乳類 (ホンドブテン) ④ ニホンザル ⑤ ツキノログマ ⑥ 土壌動物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生息ペアの全域把握</li> <li>・ 生息種の把握</li> <li>・ 生息状況の把握</li> <li>・ 生息状況の把握</li> <li>・ 生息状況の把握</li> <li>・ 生息状況の把握</li> </ul>
[3] 人間の作為に対する自然の応答と、生物多様性復元に対する効果の把握	① 自然林誘導試験地モニター ② 原生的自然林、二次的自然林、人工林モニター ③ 景観 (特に評価手法の開発に力点をおく) ① 気象 ② 地形 ③ 溪流環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過去の施業履歴調査</li> <li>・ 間伐地利用型サイトの設計と選定</li> <li>・ 特設型サイトの設計と選定</li> <li>・ モニタリングサイト設定</li> </ul>
[4] 自然の有するダイナミズムと の応答関係の把握		

